



日本製薬工業協会  
環境安全委員会 委員長

田中 賢二

製薬企業は有用性の高い医薬品を、世界中の病気で困っている患者さんに提供し、人々の健康に貢献することが最大の使命ですが、その事業活動を行なう中で、企業は顧客満足、取引先の繁栄、社員とその家族の安心、投資家の利益、企業と企業人が法律を超えた規範である倫理観をもって行動すること、本業を通して地域社会や国際社会に貢献すること、等を自発的に責任を果たす存在であることが求められるようになってきました。企業に対する社会の要請は確実に変化してきています。地球環境問題への積極的な取り組みも企業に対する社会的な要請であると位置付けられます。さらに社会に対する説明責任を果たすことも重要です。私たちは多様なステークホルダーと積極的にコミュニケーションを図り、相互理解と信頼関係の構築に継続的に努めることが企業の健全な発展に不可欠な要素だと考えています。

#### 製薬協環境安全委員会の活動

環境安全委員会の活動は、会員各社が取り組んでいる、環境や安全に関するマネジメントシステムの整備や活用、有害化学物質の大気排出削減や廃棄物削減対策、省エネルギー・地球温暖化防止対策等について、専門部会がテーマを設定し課題ごとにワーキンググループを編成して協会内外の情報を収集分析し、調査報告書や技術研修会などの企画を通じて会員各社の取り組みを支援しています。また、医薬品を使用することで生じる医療系廃棄物の適正な処理についても製造者として配慮すべきとの認識から、関係者の意見を聴き連携して容器包装の改善や処理ルート・システムの検討に参画しています。さらに、極微量の医薬品成分が河川や下水放流水から検出され、水環境の生態系等への影響に関する研究報告についても専門機関等と情報交換を開始しています。地球上の多種多様な生命体（遺伝子）は医薬品の創製に関しても貴重な資源のひとつです。生態系の保全にも医薬品メーカーとしての関わり方で持てる知見を注ぐことができると考えています。

#### コミュニケーションの強化と連携

企業の社会的責任が問われる中で、製薬協としても様々なスタイルで透明性と説明責任を果たす努力をしています。委員会の活動は、とすれば閉じたネットワークになりがちです。外部に対する働きかけ、対話にも努めています。委員会の活動が外部個々の利害の関係にとらわれる事なく、自然環境の保護という共有の視点でコミュニケーションをこちらから仕掛けることは製薬業界の健全な発展に寄与するものと信じています。

自分達で何ができるか、の次は社会と連携して何ができるか、というステージで行動することです。自然環境の保護、働くひとの健康と安全という私たち環境安全委員会で取り組むテーマは、競争ではなく多様なステークホルダーが協力しあって推進することができる活動です。製薬協の取り組みを公表し、私達の対応が適切に行われているのかどうかの評価と、関係者とのコミュニケーションを強化し、相互理解の中で協働で環境問題の解決にあたって行くための行動が重要だと考えています。

私たち製薬企業は「持続可能性」と「責任ある態度」を、ビジネスがもたらす経済的利益、社会的利益、環境利益の側面から総合的に体系付けて、社会の中でのバランスのとれた位置を見出し、そこで行動することに高いプライオリティを与え、信頼される業界を形成することに少しでも貢献できることを願っています。